

令和元年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。 中高合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 PTA活動の充実。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	来年度へどのような観点で城ノ内中等教育学校生と城ノ内高校のとの一体感を持たせるのか、分かり易い説明が必要である。 人間関係を深め、校内の人間関係を良好に保つことは、センシティブな年頃の生徒たちにとって、学習活動同様重視されるべき課題であると思う。 上級生に引っ張られて下級生が伸びる仕組みを確立してほしい。塾に行っていない生徒もいるので基本の指導をしっかりと上より難しい課題へと取り組んでほしい。 指標が全てアンケートを基にした定性的な指標であるので、適切な定量的な指標との組み合わせの方がよいのではないか。定性指標のみだと、具体的な効果や問題点が共有されにくいのでないか。	①PTA活動においては、中高が連携し、風通しのよい関係を構築しながら共通理解を図り、新組織での新たな活動を実践する。4つの専門部が軌道に乗るようにPT間で意思疎通を行い、課題に対しては臨機応変に対応する。 ②来年度の中等教育学校のスタートに向けて、今年度開催された中等教育学校移行に向けての検討会議を校務分掌や教科で継続する。前・後期課程の教員同士での相互理解を行い、生徒の発達段階を踏まえて6年間を通して指導できる体制を構築するためにも、細やかに規定や方針を見直し、改良していく。
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定) A (所見) 学校の教育活動は、評価指標を大きく上回り、全般的に高く評価されている。 中高合同で行われる部活動や城ノ内祭、生徒総会や予餞会、防災訓練など中高での連携の機会が増えて中学生が高校生を模範とする機会が増えた。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者の評価指数は高い。その他の項目においても評価指標を十分達成している。次年度の中等教育学校のスタートとともにPTAの専門部を6つから4つに再編した。		
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。 (下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	教職員の皆さんが、リーディングハイスクール事業の意義や目的を十分に理解され、取り組まれていると感じた。そのことは、研究授業や授業研究会の多さに現れている。生徒・保護者・教職員からの評価は高く、学習に対する意欲が大きいことがうかがえる。今後の更なる発展を期待する。 学力を伸ばすという点は十分な改善策があると思う。学習指導要領で示されているなができるようになるかという点も意識してほしい。 社会の中でどのように知識が生かされているのかを伝えてほしい。 外部講師はどのような人を招いて、どのような授業を聞いてみたいかのアンケートや、受講後の評価のようなものもあるといい。	①各教科で6年間を見通して身につけるべき力を明確にし、学力の確実な定着と発展的課題を解決することのできる力を育成する。 ②授業評価は継続して行う。また、形成的評価を実施するなど、PDCAサイクルで学習活動を充実させ授業改善につなげる。 ③各種検定の受検の意義について生徒に話す機会を学年、学級、教科で設ける。 ④グローバルの視点や第5期科学技術基本計画において日本が目指すソサエティ5.0の社会を見据えた外部講師を招くなど、これからの社会で必要な力を生徒に身につけさせる。
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定) A (所見) すべての項目で、評価指標を上回っている。良好な結果である。ただし、教職員の努力と生徒や保護者の認識とのずれがあり、授業評価で再点検が必要である。 また、外部講師を活用した取組は昨年度と比べ、回数は減っているが、効率的に成果を挙げている。 公開授業を通し、多面的多角的な視点から授業改善を行うことができている。また、授業評価の結果からより客観的に授業をとらえることができている。		

令和元年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
人権教育の推進	(全校レベル)	すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	<p>評価指標</p> <p>○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。</p> <p>○「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒83%(-4p)、保護者87%(+1p)、教職員92%(-4p)。</p> <p>○「生徒は自分や他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒77%(+1p)、保護者84%(+2p)、教職員71%(-12p)。</p>	<p>高い評価となっており、この状況を継続することを期待する。今まで通り一人一人の生徒を大切にしてほしいと思う。</p> <p>近年は、インターネットの発展に反比例して人間同士のつながりが希薄となる傾向があるように感じる。若い心を正しく育てるためには、学校のみならず家庭での指導も大切であると思う。</p> <p>具体的な人権侵害とは何か話し合う機会を持ってほしい。</p>	<p>①道徳の教科化に伴い、人権教育の取組が弱くなってきている。生徒に何を伝えるのが焦点化するため、教職員の認識や理解を深めていく必要がある。職員研修や授業研究を積極的に実施する。</p> <p>②人権学習で学んだことが生徒の生活や生き方に反映されるよう、掲示物や普段の声かけ等、日常生活の場面で定着させる工夫をする。</p>
	(下位組織レベル)	学級活動や学校行事の充実を図る。	<p>活動計画</p> <p>①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。</p> <p>②人権意見発表会を実施する。</p> <p>③人権に関する講演会を実施する。</p> <p>④職員研修を年3回実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①第1学年で研究授業を行った。各学年で事前研修を行い、人権課題と生徒の生活が結びつくような取組を行った。</p> <p>②様々な個人人権課題を取り上げた意見発表会を行った。</p> <p>③人権講演会は実施できなかった。全学年で全体学習を行った。</p> <p>④人権主事研修会後に行った校内伝達研修や中高合同の研修など、計5回の研修を行った。</p>		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル)	<p>学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>また、いじめを絶対許さない。</p> <p>安全教育を徹底し、事故防止に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。</p> <p>○「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>○「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者81%(+5p)、教職員79%(-17p)。</p> <p>○「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒76%(+5p)、保護者94%(-1p)、教職員79%(-21p)。</p> <p>○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒74%(+7p)、教職員46%(+8p)。</p> <p>○「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒89%(±0p)・保護者97%(+1p)・教職員88%(+5p)。</p> <p>○「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒72%(-8p)、教職員75%(+16p)。</p>	<p>挨拶が相変わらず低い状況にあることが気になる。改善を期待する。人となりは家庭での生活に大きく影響を受けるもの。「挨拶」や「自分のことは自分でする」といった基本的な生活習慣や態度は、学校に任せきりにすることなく校内校外一貫して指導にあたる必要がある。評価指標の達成度から、教員は、家庭での生活指導に対し、また生徒には自分自身で時間管理をすることについて今以上に期待をしているようだ。</p> <p>ルールを守ることがなぜ大切なのか。社会は人々がルールを守るという前提で成立している基本的なことを理解させてほしい。主体的・対話的・深い学びを取り入れて学ばせてほしい。</p> <p>いじめに対する聞き取りは常時受付できるようなシステム作りも必要ではないか。</p>	<p>①集団生活における規律ある行動や時間の遵守について、生徒会活動など生徒の自発的な活動から促せるよう、教職員自身が率先し、支援・指導していく。</p> <p>②服装・頭髪等の指導については、中等教育学校移行に向けて全教職員が共通認識を持ち、徹底してあたる。特に生徒指導課を中心に、学年間での連携をとった指導を強化する。</p> <p>③挨拶の大切さや交通ルールの遵守など日々の生活について、あらゆる機会を捉えて指導する。</p>
	(下位組織レベル)	<p>「時間厳守」の徹底。</p> <p>「挨拶の励行」の徹底。</p> <p>「服装頭髪」指導の徹底。</p> <p>積極的ないじめ認知と対応。</p> <p>交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。</p>	<p>活動計画</p> <p>①始業前着席を励行する。</p> <p>②あいさつ運動を実施する。</p> <p>③服装頭髪検査を定期的に実施する。</p> <p>④学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。</p> <p>⑤校内外での社会マナーの指導をする。</p> <p>⑥毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。</p> <p>⑦交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教員が始業前に授業場所へ行くとともに、生活委員が2分前着席を呼びかけた。</p> <p>②毎朝の教職員、生徒会役員、生活委員などによるあいさつ運動を実施した。</p> <p>③日常的に、また学年等の集会時に、頭髪服装について指導をした。</p> <p>④学期に1回アンケート調査を実施し、いじめ等の問題の早期発見や生徒理解に努めた。</p> <p>⑤毎朝、交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。</p> <p>⑥登校時、毎月1回生徒指導課の教員が校外で立哨し実施した。</p> <p>⑦日常的に、また学年等の集会時に、自転車の乗り方や安全についての話をした。</p>		

令和元年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「学校は授業や学活等の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。 ○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒が70%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒83%(-1p)、保護者85%(+1p)、教職員96%(+1p)。 ○「学校は授業や学活の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができています」と答えた生徒57%、教職員70%。 ○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒69%。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員が39%以上。	総合評価 (評定) A (所見) 地域と連携した防災避難訓練の実施や、炊き出し訓練、「登下校中における災害発生時避難場所カード」、「緊急時の生徒引き渡しカード」の作成により、生徒・職員・保護者の防災意識を向上させることができた。 様々な取り組みにより、主権者教育・エシカル消費についての学習を推進させることができた。 今年度初めて重点目標となった項目である政治に関する興味関心を高める教育については、生徒の達成度は評価指標を大きく下回った。 教職員の業務改善については、8月から退勤時刻の記録が始まったこともあり、業務の精選に取り組んでいるが、超過勤務の要因の大半は部活指導や生徒指導であり、なかなか簡素化できない実態がある。	教員を目指す生徒を増やすことは、教育界にとって重要なことと思う。そのためには、今の業務を改善することが重要である。保護者側の理解や協力を要する項目もあると思うが、削減できる業務については積極的に減らし、よりよい職場環境を目指してほしい。 近年多発する災害や南海トラフの存在もあって防災意識は十分高い。東日本大震災の実際の被災者の方にICTでつないでお話を伺える機会があってもいいのではないかと感じる。 生徒たちは、選挙や政治についての関心は希薄そうなので投票率向上も考慮し、権利と義務についての指導が必要であると感じる。	①災害時の様々な時間帯、状況を仮定して、防災避難訓練を継続的に実施する。 ②防災士の養成に力を入れるとともに、知識や技能の維持向上を図る研修を取り入れる。 ③生徒に18歳からの政治参加が現実問題であると考えさせるために、外部講師等を招いての講演会や議会見学、模擬投票などの体験活動を取り入れる。 ④総合的な学習の時間の中にエシカル教育を取り入れ、エシカル消費につながる実体験をさせることで消費生活の意識を高めさせる。 ⑤教職員の超過勤務縮減のため、次年度から電話対応の時間を7時から19時に設定する。
	(下位組織レベル)	防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育を充実させる。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②年2回以上、地域の方と連絡を取り共同で活動する。 ③災害時における家庭との連絡体制を、より強化する。 ④社会科の授業を中心として、選挙制度や政治参加の意義について話し合いを行う。 ⑤エシカルな商品選択について、調べ学習や話し合い活動を行い、まとめた内容を掲示する。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練を青嵐認定こども園の先生、園児、地域の方々も参加し、2回実施した。 ②地域と連携した防災避難訓練に加え、炊き出し訓練を同様に連携して1回実施した。 ③「登下校中における災害発生時避難場所カード」、「緊急時の生徒引き渡しカード」をすべての学年で作成し、6年間継続して活用できるようにした。 ④公民科の授業を中心に主権者教育についての理解を深め、選挙制度や政治参加の必要性の意識を高められた。 ⑤講師による講演や、調べ学習により、エシカル消費の基礎について学び、考えることができた。			
環境教育の推進	(全校レベル)	環境教育への取組を推進し、学習の場にもふさわしい環境を整える。	評価指標 ○「清掃に積極的に取り組むことができています」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒84%(+9p)、保護者89%、教職員74%(-8p)。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒81%(+1p)・教職員83%(-3p)。	総合評価 (評定) B (所見) 清掃活動や環境保全に対して、熱心に取り組んでいる。毎日の短時間で地道な活動であるが、日々の積み重ねにより環境保全の取組を確実に継続していくことが大切であると認識できている。	①整備委員会を中心に、ゴミの分別を徹底し、節電、節水、リサイクル活動をより一層推進する。 ②毎日の清掃活動を主体的に取り組ませるために「清掃の三原則」を徹底した指導をする。	
	(下位組織レベル)	清掃に積極的に取り組む。 ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①ゴミの分別への声かけと共に、分別への積極的な協力が出来た。 ②高校の環境委員会による使用水量、電力の推移のグラフに啓発されて、中学生も節水・節電の意識を高めた。 ③吉野川堤防清掃は、中高合同で1回(7月)行った。中学校だけで、校内の野外清掃を1回(12月)行った。			

令和元年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善策
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事、部活動等の特別活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒93%(±0p)、保護者94%(-1p)、教職員100%(+9p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒87%(+2p)、保護者78%(-2p)、教職員65%(-21p)。 ○「生徒会・専門委員会活動は活発に活動している」と答えた生徒85%(±0p)、保護者89%(+1p)、教職員65%(-17p)。	総合評価 (評定) B (所見) 特色ある学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいるので、生徒、保護者の評価は高い。教職員は部活動や生徒会・専門委員会を熱心に指導しているが限られた時間の中でなんとかやりくりしていることで低い評価につながった。	特別活動が活性化していることは学校全体の活力に繋がることで大切であると思う。勉強とのバランスを図りながら充実されることを期待する。どの部活動でもどのくらいの練習時間が必要なのか、勉強や他の習い事と両立できるのか入部前にわかってから選べるとよい。 A評価でいいのではない。教職員の低い評価は、労働環境と仕事の取捨選択の問題であり、重点目標が達成されていないとは思えない。	①各行事について、実施方法、内容等について見直しを図り、より効率的・効果的に実施できるようにする。 ②行事の際の生徒の自主的な参画について、高校とも連携し、生徒会、委員会活動を中心に更に強く推進する。 ③時間が限られた中で、部活動に集中して取り組めるように、放課後の時間、また練習方法について調整、工夫をする。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。部活動を活発にする。 生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③これまで以上に生徒を中心とした生徒会・専門委員会活動を増やす。	活動計画の実施状況 ①各行事で生徒会執行部や委員会の生徒が中心となって行うことができた。 ②部活動の大会等の様子をホームページに掲載し、広報活動を行うことができた。 ③生徒会執行部や各委員会では、それぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。			
開かれた学校づくりと郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。 地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「夏期講座は本校の特色を理解してもらうことに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者85%(+1p)、教職員82%(-18p)。 ○「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者94%(-1p)、教職員91%(-4p)。 ○「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒94%(+3p)、保護者93%(-2p)、教職員91%(-4p)。 ○「夏期講座は本校の特色を理解してもらうことに役立っている」と答えた生徒86%、保護者88%、教職員82%。	総合評価 (評定) A (所見) 全項目で評価指標を上回り、保護者や地域の高い関心と支援を受けて、開かれた特色ある学校作りが推進されている。 ホームページのアクセス数も増えている。行事等の迅速なアップや連絡事項の周知について教職員の相互理解・協力はできている。 学校の教育活動に関心が高い家庭が多く、文化祭の公開については、生徒の日々の学習の成果を理解してもらうに役立った。 夏期講座や水泳・阿波踊り実習等が特色ある学校行事として定着している。	情報公開はよくできていると感じる。個人情報に配慮する中で積極的に情報を提供すれば、保護者の理解や社会からの正当な評価を得られると思う。中等教育学校の素晴らしさを積極的にPRしていただきたい。 情報共有の手段として、HPを活用しているが、他の手段のひとつとしてSNSの活用も視野に入れてはどうか。更新も手軽かつ迅速なので情報共有の手段としては大いに有効かと思う。 「HPは本校を理解してもらうのに役立っている」の教職員の評価が低くなったのが気になる。教職員に情報リテラシー教育が必要なのではないか。Society5.0などと言っても教える側の情報リテラシー向上は大切。保護者や生徒との情報リテラシーの乖離を感じる。 文化祭の公開は工夫されていると毎回感じる。	①中等教育学校のホームページの運用も開始される。更新についても引き続き、迅速かつ内容充実に努める。HPの内容を更に深めるために、全教職員がHPにアップできる技術を習得する。 ②文化祭の公開については、引き続き生徒の体験活動を取り入れた内容とし、学習の成果が理解してもらえるよう工夫する。 ③学校の特色となる多様な行事については、今後も継続的に実施するとともに新たな企画を提案し改善する。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。 学校公開の日や城ノ内祭の公開など学校公開の機会を充実。 地域に根ざした体験活動・行事の実施。	活動計画 ①ホームページの更新に全ての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②阿波踊りや水泳実習・総学発表会等地域資源を生かした多様な行事を実施する。 ③夏期講座を充実させる。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は779,296回(昨年比50%増)、総アクセス数4,546,185回であった[1月現在]。 ②計画通り実施することができた。それぞれの学習で積極的に活動する生徒の姿が見られた。 ③各講座で趣向を凝らした楽しい体験的活動を計画し、実施できた。外部施設や団体の活用、大学から講師先生の招聘や高校の先生との連携講座など内容は多岐にわたった。			